15 皮膚科学講座

主任教授からのメッセージ

皮膚科は女性医師が多く、女性医師の置かれた特別な状況やその状況を少しでも解決しようとする理解があります。当科でも、短時間勤務医師を含めて多くの女性医師が個々の状況に合わせて診療にあたっています。産休・育休からの復帰に際しては、将来のビジョンや価値観に応じて、質と内容の伴った支援策を模索していく必要があり、支援の内容に幅を持たせることで、自分に今何が必要かを考えながらキャリアを形成することへのモチベーションにも繋げていきます。また、同じ様な状況の女性医師の存在は心強く、家事の効率化やキャリアアップをお互いの視点で共有し、そのノウハウを伝授し合うことができる環境で勤務することが出来ます。

一人一人の先生方に目線を合わせたアドバイスをしていきたいと考えていますので、日常生活で家事育児に追われていると感じたときこそ相談してください。「仕事と生活の調和」を見直しながら、興味ある皮膚科の仕事を続けることが、長い目で見た時に人生の豊かさに繋がるはずです。一緒に頑張りましょう。

○ 診療科の特徴

皮膚科で対象とされる疾患は非常に種類が多く、診断や治療におけるアプローチの仕方も様々です。診断のための検査では血液や画像などの一般的なものから、真菌検鏡や皮膚病理組織検査・アレルギー検査など専門的な手技が数多くあります。治療も内科的治療・外科的治療いずれも含まれ多岐に渡ります。しかし、それぞれの手技は比較的取り組みやすいものがほとんどです。患者数も多いため経験値を上げる機会に恵まれ、日常診療の中で診断や治療の技能が自然と身について行くことができる診療科であると言えます。出産や育児などでも役割を果たすことの多い女性医師にとって、プライベートの時間も確保しつつ仕事を継続していきやすいためか、皮膚科は全国的にも女性の割合が高くなっています。

○ 診療科で働く女性医師

当教室では、様々なライフステージにある女性医師達が元気に働いています。

	所属女性医師 / 総医師数	短時間勤務職員数	産休・育休中
附属病院	11/14	5	3
総合医療センター	7/8	2	2
香里病院	2/3	0	0

職場復帰への取り組みについて

○ 復帰までの道のり

産休・育休を取得した際の皮膚科としての年数や経験値・復帰する時の環境（保育園やその他サポート環境）はそれぞれ異なるため、診療部長や上級医と相談してその人にあった勤務体系となるよう工夫しています。

○ 研修内容

復帰した時の状況にもよりますが、概ね以下のような内容となります。それぞれの事情がありますので、柔軟に対応しています。

①外来業務

週１～３回、外来担当医として診療を行います。通常３～４診制で行っているため、わからないことがあれば必ず上級医に相談できます。原則として入局１年目は基本的には外来処置番として外来の補助およびシュライバーとして上級医の外来を見て皮膚科診療について勉強する場となります。

②病棟業務

患者一人に対し外来主治医と数人の担当医で治療を行うチーム制をとっています。特に子育て中の医師であれば、重症や時間外の対応が難しいため、無理のない範囲で関わることができるよう皆で協力しています。

③手術

皮膚表面に限局した、いわゆる小手術とされる手術がほとんどです。慣れないうちは上級医が指導しながら行いますが、やる気があれば他科の手術よりも短期間で習得することができます。もちろん悪性腫瘍の拡大切除やリンパ節郭清といった比較的大きな手術に参加することも可能です。

○ 女性医師キャリア形成支援担当医師からのメッセージ

私は 12 年前に他の施設で産休・育休・職場復帰を経験しましたが、その頃と比較すると（徐々にではありますが）近年は子育てをしながら働く医師への理解や、それをサポートする様々な仕組みが整えられて来ていると感じます。「子育て」とひとことで言っても、子供の人数、家族や祖父母の協力体制、保育園に入りやすい地域かどうかなど、置かれている状況は皆違います。家庭と仕事にどのようなバランスを置くかもそれぞれの考え方があります。当教室では、そのような多様性を尊重し、自分にあったペースでキャリアアップしながら働いていける職場を目指しています。沢山の女性医師が子育てをしながら働いていますが、もちろんそれを支えてくださっている先生方や他のスタッフへの感謝や配慮も忘れてはならないと思います。

仕事も家庭も大事にすれば、しんどい時もあるかもしれませんが、コツコツ続けていけば得られるものも沢山あるはずです。当教室で働く女性の先生方が、子供も自分も成長できた！と感じていただければ嬉しく思います。

復帰した医師の声

体験談（A 先生）

私は産後 7 か月で復職し、附属病院でフルタイム勤務をさせて頂いています。仕事と育児の両立は想像以上に大変で、特にコロナ禍という非日常のストレスも加わる中仕事をするのは、周囲の助けがなければとても不可能でした。しかし幸いなことに、職場の先生方は配慮して下さり厚くサポートして下さったおかげで、何とか続けられています。皮膚科は女性が多いからというだけでなく、男性医師も育児に対する理解が深いのが有難かったです。例えば、子供が急な発熱で迎えに行かなければならないとき、「大変だね。あとは任せて、早く行ってあげて！」その一言にどれだけ救われたか、と感じます。また、先輩ママさんとの何気ないやり取りの中で、仕事との関わり方や、育児の疑問など悩みを打ち明けて気が楽になることも多かったです。復帰から早 1 年が経った今は、自身も助けてもらった分、後に続く先生の分も同じようにサポートできるように頑張りたいという思いと、仕事上の業績など何らかの形で教室に恩返しが出来ればと考えています。大変だけれどやはり仕事は楽しくやりがいがあり、色々経験した上でそのように感じられることを嬉しく思います。また、皮膚科は専門医取得のための必須の常勤期間が厳しく、一度産休などでブランクが空くと、専門医取得を諦めてしまう人も少なくないと聞きます。当科はありがたいことにバックアップ体制が厚いため、やる気があれば専門医を十分に目指せる環境だと思います。

体験談（B 先生）

①育休・産休を取った時期とその期間

現在 8 歳と 2 歳の 2 人子供がいます。

1 人目のときも 2 人目のときも、産前 6 週より産休を取得し、1 人目では生後 9 か月目で復帰し、2 人目では生後 6 か月目で復帰しました。

②職場復帰後の様子・1 日のタイムスケジュール

1 人目も 2 人目も復帰時は女性医師支援制度を使用し、2 人目の産後、復帰して 1 年後に大学院へ進学しています。

③思うこと・伝えたいこと。

現在医師として卒後 19 年目となります。医師として働きだした当初は、女性医師支援制度などはなく、当時は出産した医師が復帰するにはかなりハードルが高い状況でした。しかし、幸いなことに私が出産したときには、女性医師支援プログラムがあったことから、この制度を利用し、周囲の助けの中、育児と仕事のバランスを取りながらここまで過ごすことができました。

他には、同期の先輩ママ先生などから、保育園の入園について、病気のときに、利用できる病児保育の情報などを聞けたこともすごく助かりました。無事に認可保育所に入り、病児保育の利用のおかげで、仕事に穴をあけずに今までやってこられました（利用している病児保育は当日 8 時までは 100％保育の保証があり）。妊娠・出産時期には復帰後のことなどをいろいろ考える余裕のない状況ですが、これらの情報収集は非常に重要だと感じました。

また、子供が小さいうちは、日常の最低限の家事と育児をするだけで精一杯であり、すべてを完璧に行おうとすると、時間の余裕がなく、ストレスがたまってしまいます。大事なポイントは手を抜けるところは抜くこと、夫とも協力をすることが大事だと思います。私も 1 人目のときに経験したにもかかわらず、2 人目の出産後は、家事が進まず、何度もくじけそうになりましたが、できないことは無理せず、今後は家事サービスなどの利用もいいのではと考えています（自分がしんどいと、子育てにも仕事にもいい影響はありません）。

今後、出産後に復帰するときは、先輩のママさん医師からいろいろな情報を集めたり、無理しすぎないように、周囲に頼りながらゆっくりしたペースで進むことが大事だと思います。

● 講座ホームページ　関西医科大学　皮膚科学講座　　**http://www7.kmu.ac.jp/derm/home/**